

入倉・三宅式の問題

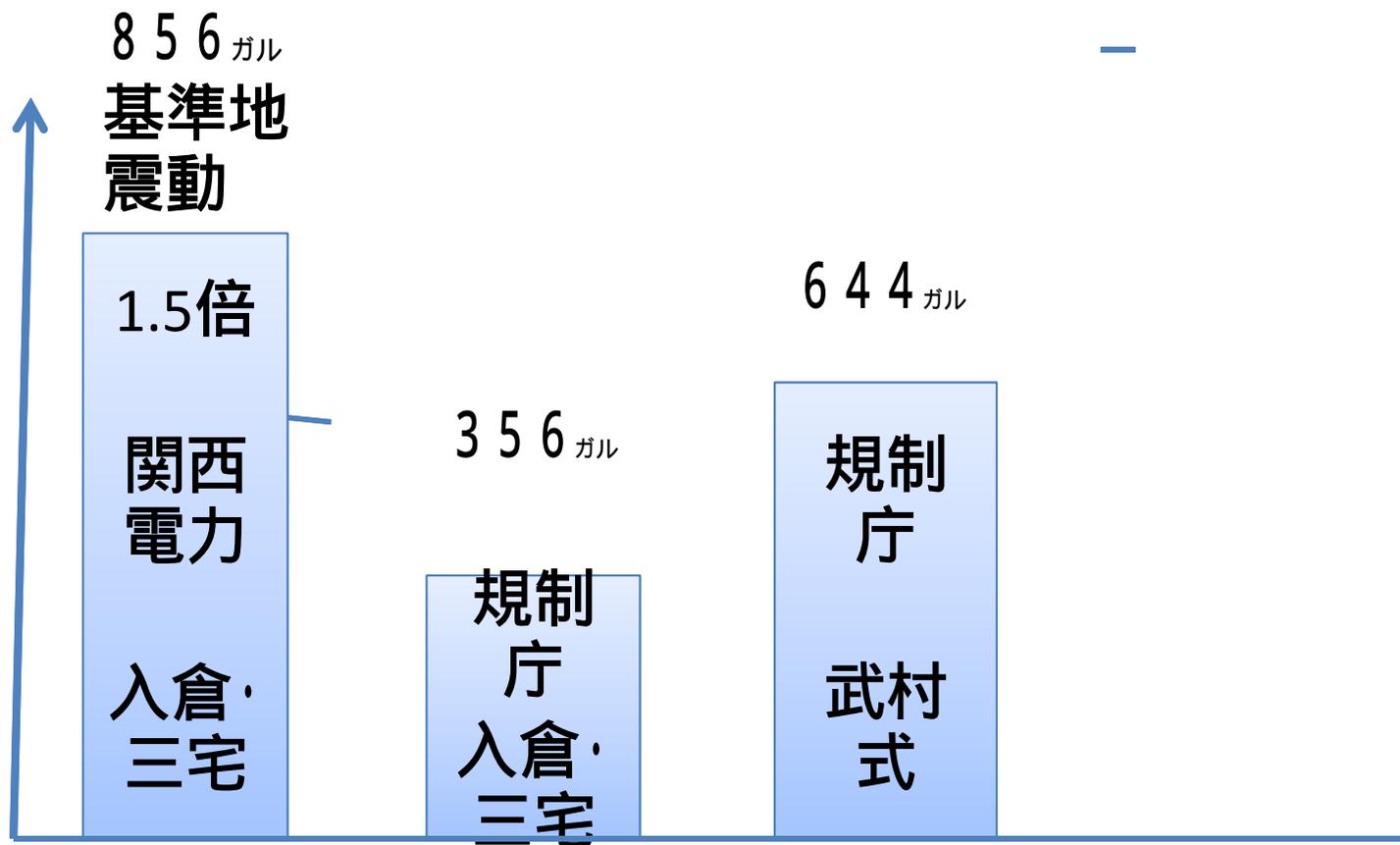
断層が垂直、或は垂直に近い場合に
震源の大きさ(地震モーメント)が過小評価

西日本の多くの断層が垂直、或は垂直に近い

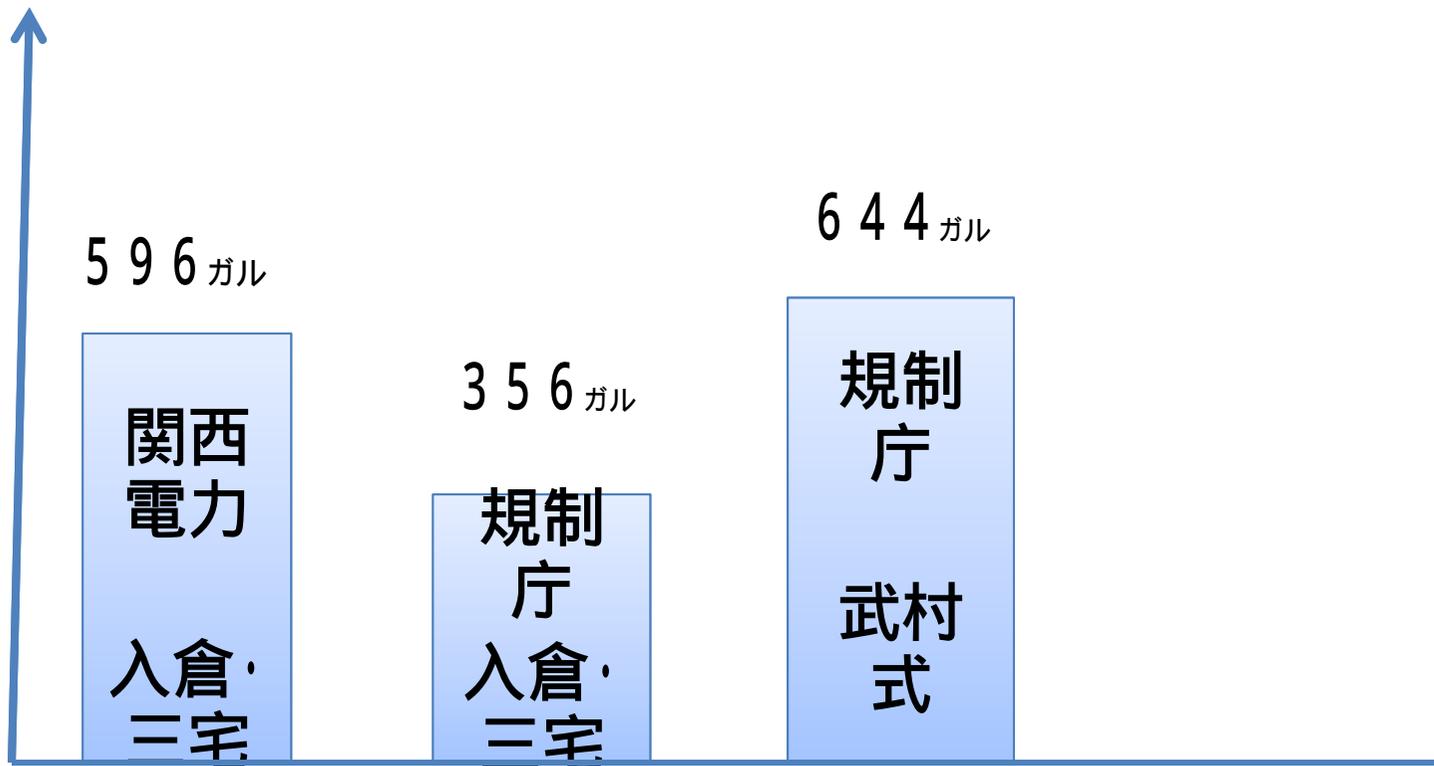
異なる式を用いたレシピが複数:地震本部、中央防災会議

計算結果

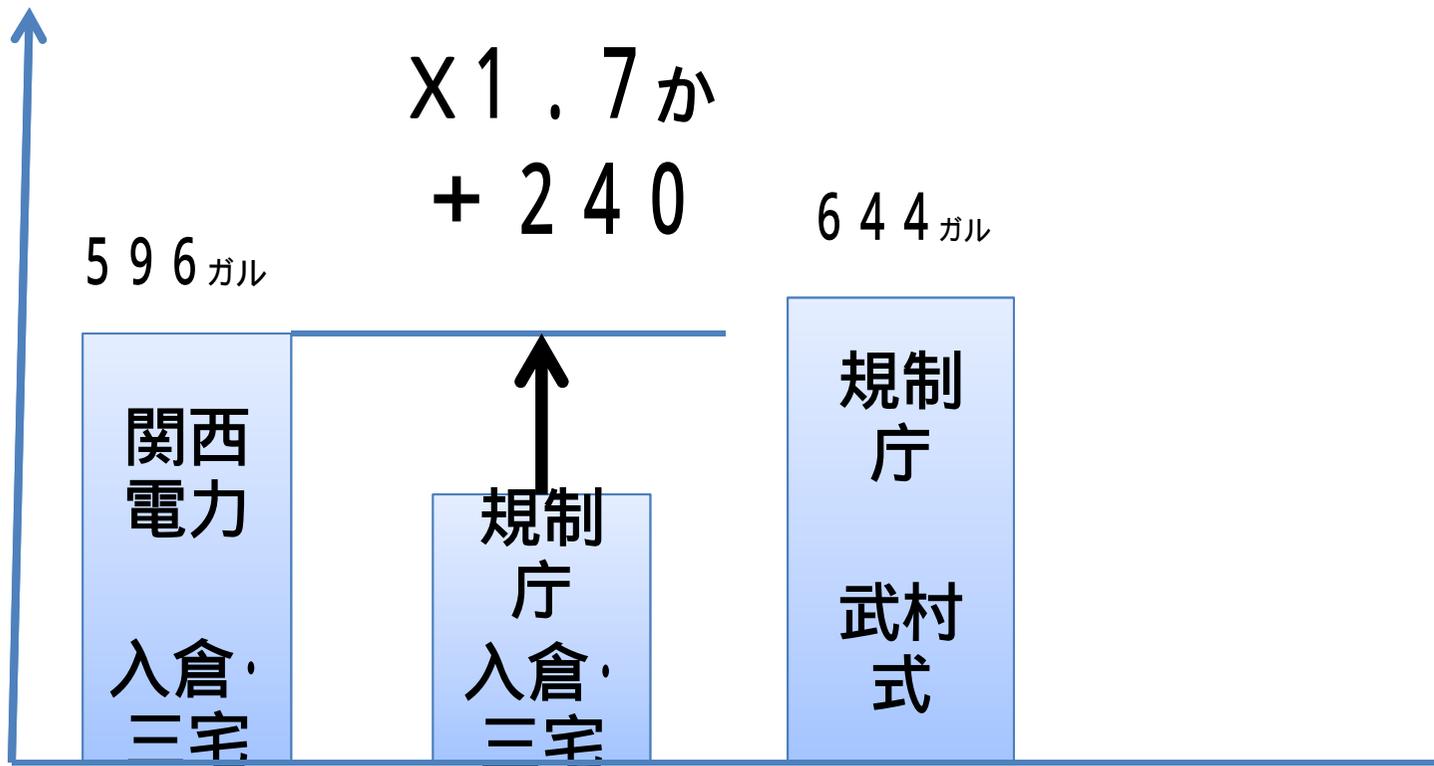
揺れの強さ(東西、最大加速度、
周期0.02秒)



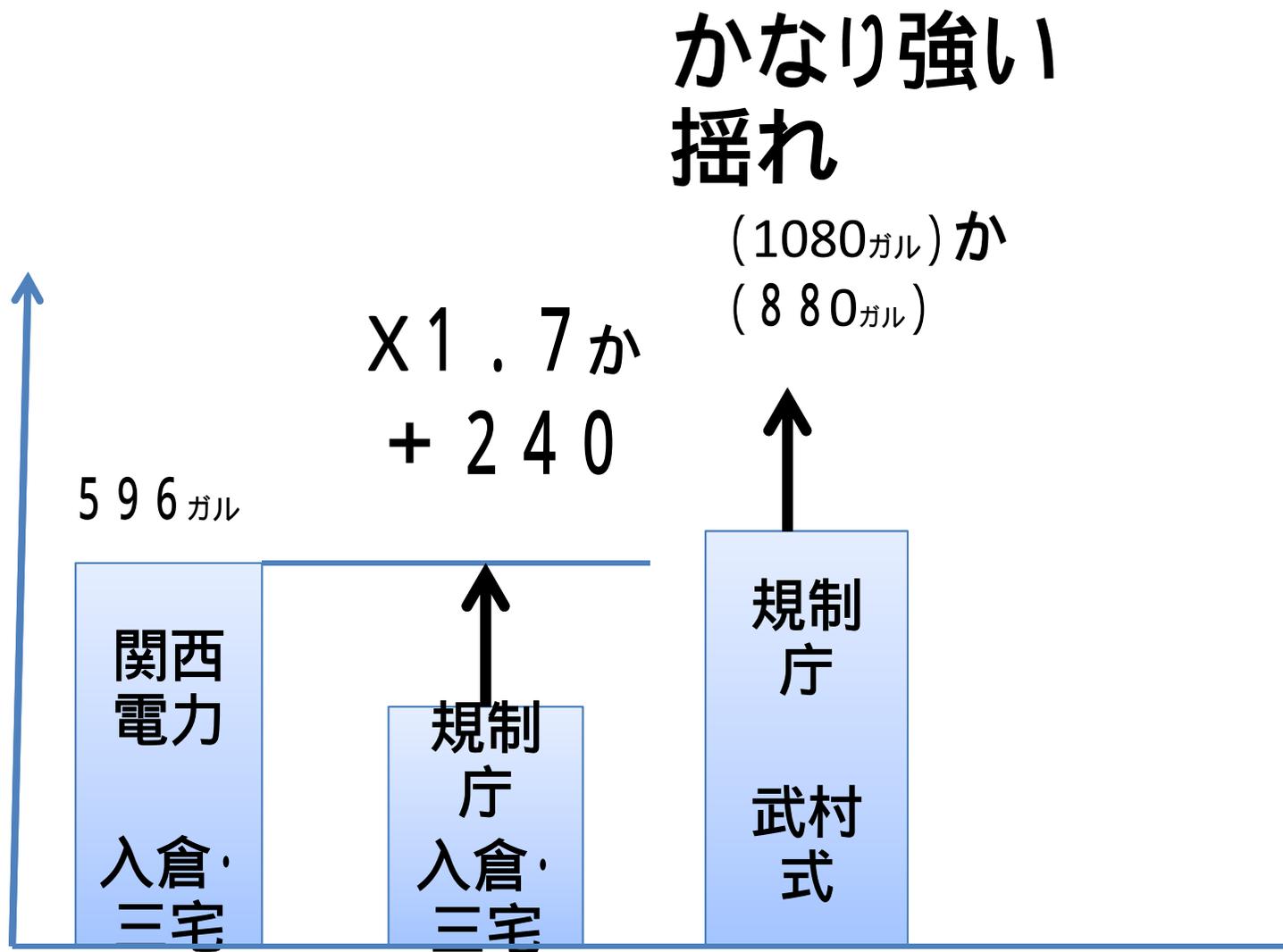
揺れの強さ(東西、最大加速度、
周期0.02秒)



揺れの強さ(東西、最大加速度、
周期0.02秒)



揺れの強さ(東西、最大加速度、
周期0.02秒)



かなり強い
揺れ

(1080ガル)か
(880ガル)

X1.7か
+ 240

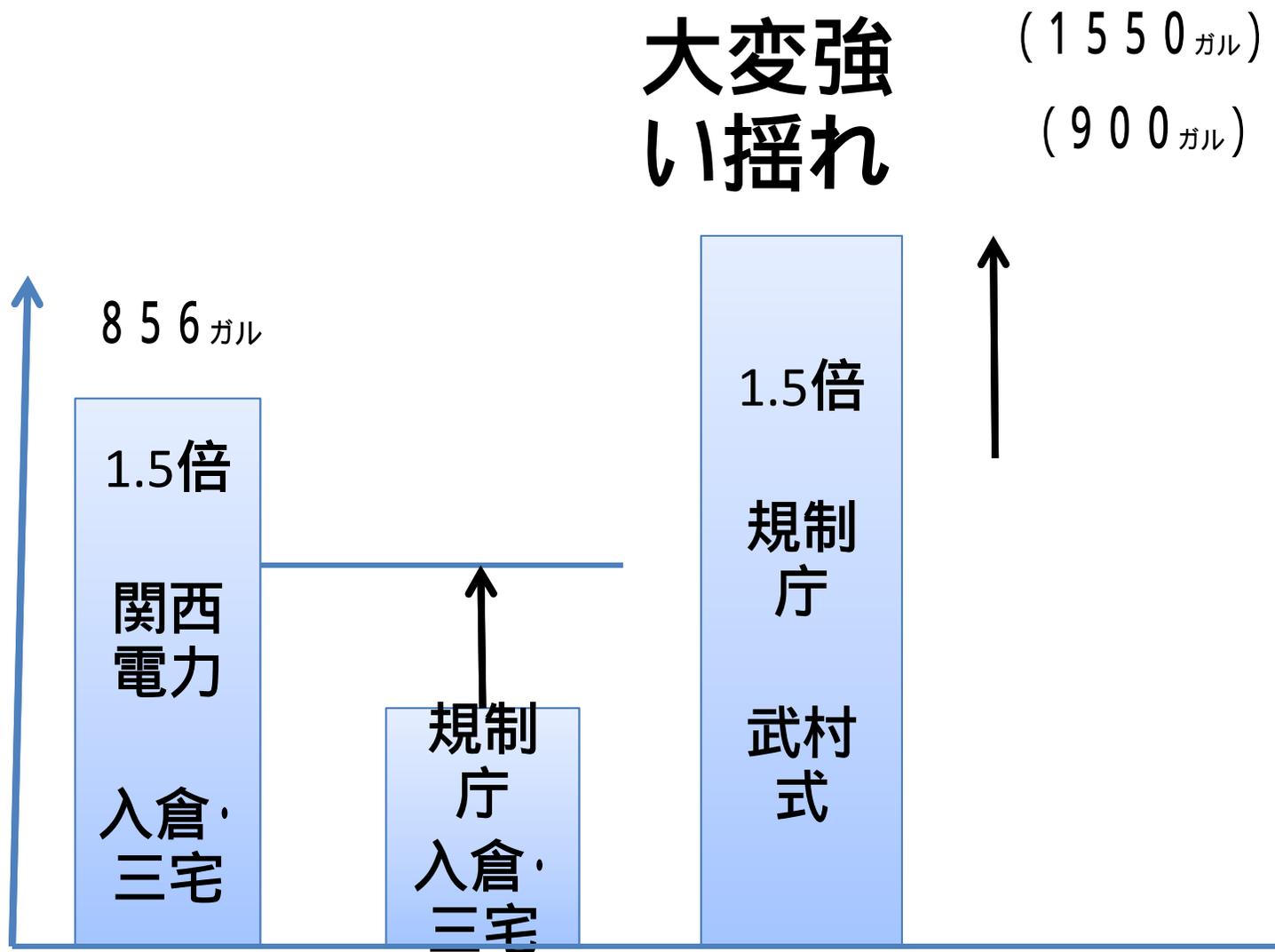
596ガル

関西電力
入倉・三宅

↑
規制庁
入倉・三宅

↑
規制庁
武村式

揺れの強さ(東西、最大加速度、
周期0.02秒)



短周期レベル1.5倍(不確かさ)

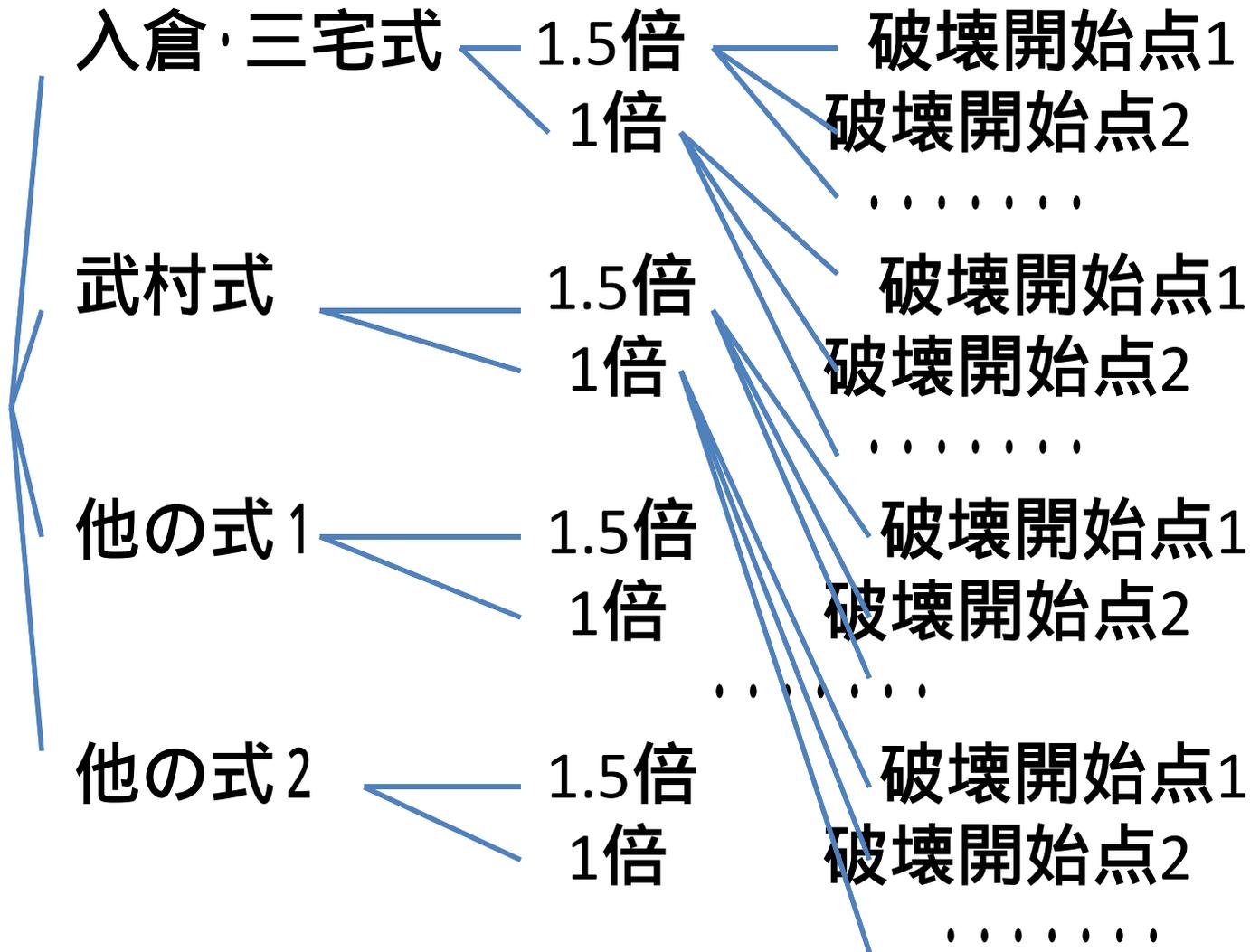
- 2007年中越沖地震の反省
震源特性のため。1.5倍を、縦ずれ、横ずれ、断層の傾きに関わらず適用する。

中越沖地震の断層は傾いている



入倉・三宅式の問題とは無関係

論理ツリー



揺れの強さ(東西、最大加速度、
周期0.02秒)

大変強い揺れ

(1550ガル)

(900ガル)

垂直或は垂直に近い断層の場合、入倉・三宅式を用いると過小評価となる。津波だけではなく、地震動も。

電力
入倉・三宅

規制
庁
入倉・三宅

武村
式

提案

まず、過小評価の恐れがある入倉・三宅式は
不使用

基準地震動設定には様々な手法が用いられて
いる。

次に、強震動観測波形の利・活用促進
活断層が特定できる場合にも使用
強震動専門家の提案の検討・採用

提案

計算については、信頼性の回復

複数機関(A研究所、B社など)で、公表されているパラメータについては同一として、それぞれで再計算してもらう。